

# PROFILE

## 久保 義 弘 君

東京医科歯科大学大学院機能協関システム医学  
分野（医学部生理学第二講座）



以下は、着任時に書いたあいさつ状です。

「萌える緑が五感にさわやかな季節になりました。皆様ますます充実した日々をお過ごしのこととお慶び申し上げます。さて、この4月、私は、10年間お世話になりました思い出多い東京都神経科学総合研究所を退職し、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科機能協関システム医学分野（これまでの医学部第二生理）に教授として着任いたしました。伝統のある生理学の教室に着任し、身の引き締まる思いです。今後、いつでも本質的に大切だと自分自身が信じることのできる課題に取り組み思い切り研究を楽しみたい、在籍する人がそれぞれの個性と実力を自然に発揮して成長していけるような明るく真剣な研究室にしたい、学生の皆さんとの学問的交流を大切にしよう努めたい、と希望に満ちたはりきった気持ちです。ひとつの転機を迎えた今、自分に与えられた環境と自分のまわりにいらっしゃる方々に感謝する気持ちを持ち続け、自分自身が成長していきたいと思えます。今後ともこれまで同様にお導き下さいますよう心からよろしくお願ひ申し上げます。」

早いものであつという間に2年が過ぎてしまいました。こうありたいと思う自分と成長の途上にある実際の自分のギャップに悩むことが多い毎日ですが、この文で記した気持ちには全く変わりありません。

研究者としての生い立ちについて自己紹介したいと思えます。私は、東大脳研神経生物（当時）の高橋國太郎先生（現明治薬科大）のご指導の下、大学院時代を過ごしました。最初の1年間は、平

野丈夫先生（現京大理）の、小脳の培養細胞を用いたシナプス機能の研究に参加し、研究者の心構えを指導していただきました。2年次から、未分化幹細胞を用いた分化初期過程におけるイオンチャンネルの動態についての研究を開始し、東京都神経研に就職し留学するまでの5年間この研究を行いました。平成3年から2年間、UCSFのLily Jan先生の研究室にポスドクとして留学し、この時に内向き整流性 $K^+$ チャンネルとムスカリニック $K^+$ チャンネルのcDNAクローニングを行いました。これがきっかけとなり、以降、分子機能のしくみについての生物物理学的な興味と、細胞生理学的な興味との両面から、イオンチャンネル・受容体・G蛋白質等の構造と機能、修飾機構についての研究を進めています。

私は、これまで先生に恵まれ、親身になってご指導いただき、またよき仲間を支えられ励まされて、自分なりに成長することができたと思えます。大学の先生になって2年が経過し、学問の場として研究室に緊張感が必要だけど、それはうまく歯車がかみ合って全体がイケイケムードになれば、きっと自然にもたらされるものなんだと思うようになりました。一研究者として成長していくために自分に対する厳しさを持つと同時に、どこか気楽さを持つことによって、研究室の雰囲気「自然に」高まるようになるといいなと思う、今日この頃です。

これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

[略歴]

昭和60年3月 東京大学医学部医学科卒業

平成元年3月 東京大学大学院医学系研究科博士課程修了

平成元年4月～ 日本学術振興会特別研究員

平成元年10月～ 東京都神経科学総合研究所

主任研究員（平成3年～5年の間 UCSF に留学）

平成9年7月～ 東京都神経科学総合研究所  
副参事研究員

平成12年4月～ 現職